



わい化病に極めて強い大豆

～品種育成に向けた足がかり～

ダイズわい化病：北海道の大豆栽培における最重要病害

生育初期に感染すると著しく生育が抑制され、莢がつかず、収量皆無になることもある

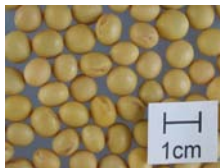


感染個体は秋期に青立ちし、機械収穫時の汚粒発生要因となる(写真手前)



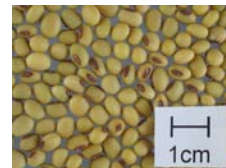
⇒現行の品種ではわい化病を媒介するアブラムシ防除が必要

北海道の優良品種
「トヨコマチ」



わい化病に弱いのが欠点

わい化病に極めて強い
「WILIS」



東南アジア原産のため
北海道では成熟しない

交配・選抜を繰り返し、「トヨコマチ」に「WILIS」のわい化病抵抗性を導入

	成熟期 (月/日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	百粒重 (g)	激発圃場での 発病率(%)
#1	9/12	49.1	11.1	32.0	5.0
#2	9/12	46.1	10.9	32.4	5.0
#3	9/12	45.3	10.6	31.3	0.0
トヨコマチ	9/14	46.2	10.1	36.1	85.0
WILIS	10/4未達	158.8	29.7	11.5	0.0

育成した#1～3は「トヨコマチ」ではわい化病に強いわい化病が多発



熟期・草姿・粒の外観がほぼ「トヨコマチ」並で、
激発圃場でもわい化病にかかりにくい大豆を育成した

ただし、その他の病害抵抗性や収量性、加工適性等については未調査である

北海道立中央農業試験場 遺伝資源部 資源利用科
住所 〒073-0013 滝川市南滝の川363番地2
電話番号 0125-23-3195
e-mail: seika@agri.pref.hokkaido.jp